



国際ロータリー第2790地区 千葉南ロータリークラブ会報

THE ROTARY CLUB OF CHIBA SOUTH



■創 立■ 1964年3月2日 ■例会日■ 毎・金曜日12時30分 ■例会場■ オークラ千葉ホテル
 ■会 長■ 小林 透 ■幹 事■ 廻 辰一郎 ■会報委員長■ 石井 慎一
 ■事務局■ 〒260-0027 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階 (☎043-245-3204)

2016-17年度

第2560回

平成28年10月14日(金) 点鐘12:30 《晴れ》

《ガバナー公式訪問》(千葉南RC・千葉緑RC合同)

- ◆ロータリーソング『我らの生業』
- ◆四つのテスト ～言行はこれに照らしてから～
 1. 真実か どうか
 2. みんなに公平か
 3. 好意と友情を深めるか
 4. みんなのためになるか どうか

◆お客様紹介

- ◇国際ロータリー第2790地区
ガバナー 青木 貞雄様
- ◇地区幹事長／藤崎 政弘様
- ◇地区幹事／成田コスモポリタンRC・会長
石井 量久 様
- ◇地区幹事／成田コスモポリタンRC・幹事
奥村 國雄 様
- ◇第3分区Bガバナー補佐 金親 博榮様
- ◇NPO法人 都川の環境を考える会
副理事長 土屋 潔 様

◆会長報告

小林 透会長

本日は、ガバナー公式訪問に伴う千葉緑ロータリークラブとの合同例会です。大変多くのお客様をお迎えいたしました。

10時30分より、ガバナーとの懇談会がございまして、会長、幹事、副幹事が出席致しました。例年、定款や細則の内容についてのご指導が多いようですが、本年度は規程の大幅な変更に伴い、各クラブとも改定中のため内容にはふれずにクラブ運営に関するご指導と意見交換の時間を沢山いただきました。本年度も4分の1が経過しておりますが、やれることをしっかりと実行していきたいと考えております。

公式訪問に先立ち、本年度の活動計画書を改めて読み直して臨んだのですが、今までの歴史、RI会長、ガバ

ナーのメッセージなどは大変重要だと思いましたが、この後の活動にしっかり生かしていきたいと思っております。

本日は、青木ガバナーの卓話を頂戴し、例会終了後から15時まで、合同のクラブ協議会もごぞいます。長い時間になりますが、なるべく多くの会員に参加していただきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

◆委員会報告

《社会奉仕委員会》

毎年、支援させていただいている「NPO法人都川の環境を考える会」へ支援金を贈呈させていただきたいと思っております。



NPO法人都川の環境を考える会 副理事長 土屋 潔様

今日はお招き頂きありがとうございます。理事長の武部ですが、本日は急用が出来ましてお伺いすることが出来ませんでしたので、私、土屋が出席させていただきました。例年、千葉南ロータリークラブさんには、大変ご支援いただいております。都川の環境を考える会には、千葉南ロータリークラブから3名の方に会員とさせていただいております。前年度の会長さんでありました伊藤さん、北原さん、竹尾さんが我が会の会員であります。

千葉南ロータリークラブさんには、都川の環境整備の活動について、特に桜の植樹でして、一番最初の取っ掛かりは、北原さんが活動して桜を植えていただいたのが始まりで、ずっとやってきましたが、昨年をもって460本の桜の植樹が終わりまして植えるところが無くなり、これからは、維持管理と色々ご協力いただいております。これからもよろしく願いいたします。今日はありがとうございます。

◆幹事報告

廻 辰一郎幹事

次週21日金曜日は、「第3分区合同ロータリー情報研修会」になります。金親ガバナー補佐主催、千葉南クラブがホストでございます。12時に集合していただき、1階のラウンジテレビで食事をして頂き、その後、皆様をお迎えする運びになっております。

千葉緑ロータリークラブで研修会に参加される方は、13時30分点鐘ですのでよろしくお願い致します。

◆ニコニコボックス報告

《千葉緑RC 会長・土橋昌江様、会員一同様》

青木貞雄ガバナー、金親G補佐、藤崎幹事長、石井地区幹事、奥村地区幹事、そして、千葉南ロータリークラブの皆様、本日のガバナー公式訪問、宜しくお願ひ致します。

懇談会、合同例会、クラブ協議会の準備等、すべてお任せして申し訳ありません。本日一日お世話になります。

《小林 透会長、廻 辰一郎幹事》

皆様、こんにちは！秋もたけなわでございます。そのような中、本日は、千葉緑クラブさんと合同での「ガバナー公式訪問例会」でございます。

青木ガバナー、藤崎地区幹事長、石井地区幹事、奥村地区幹事、金親ガバナー補佐の皆様、ご指導のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

NPO法人都川の環境を考える会・土屋様、ようこそお越し下さいました。ごゆっくりお過ごし下さい。

本日のニコニコボックス	12,000 円	累計	160,000 円
金の箱	1,430 円	累計	7,424 円

◆出席報告 (会員数51名)

出席者数	欠席者数	ピンター	9/25 修正出席率
32名	19名	5名	100 %

千葉市内例会変更のご案内 [メーキャップにご利用下さい。](#)

千葉RC	月	10/31	三井ガーデンホテル千葉
千葉西RC	火	11/8・11/29	センシティブタワー「東天紅」
千葉幕張RC	火	11/29	アパホテル&リゾート東京ベイ
新千葉RC	水	—	京成ホテルミラマール
千葉北RC	水	—	ホテルポートプラザちば
千葉中央RC	木	10/27・11/10	三井ガーデンホテル千葉
千葉港RC	木	10/20	京成ホテルミラマール



本日の卓話

国際ロータリー第2790地区
ガバナー 青木 貞雄様



本年度当地区ガバナーで成田コスモポリタン RC の青木です。

地区大会は、天候にも恵まれ、多数の皆様の参加をいただくことが出来、ありがたく思っております。

2008 年国際協議会で自ら考案した職業奉仕を幹とする「ロータリーの樹」を発表すると共に、国内・国際ロータリーの要職を歴任された渡辺好政 RI 会長代理(RID2790PDG で元 RI 理事)による理解が容易なロータリーの基本、また、変化するロータリーへの対応等の話を伺うことが出来、多くの仲間との親睦を含め、皆さんも何かを学んでいただけたのではないかと思います。

さて、Germ RI 会長より、各クラブの状況把握、及び支援はガバナー補佐の務めであり、ガバナー公式訪問は、切磋琢磨するための複数クラブ間情報交換の場とするよう示唆があったため、本年度は、3クラブが6ヶ所、本日を含め2クラブが 18 ヶ所と 54 クラブが合同、残り 29 クラブは単独で、7 月 27 日から 11 月下旬の間に 83 クラブを 53 回に分けて公式訪問させていただく予定で、本日は、第 36 回 59・60 クラブ目です。

ご案内の通り、6 月末の富津 RC の RI 脱会により、当地区の今期は 83 クラブ 2,729 名でのスタートとなりました。そして日本全体では、富津 RC を含め、昨年 1 年間に 6 つのクラブが廃止となったことを申し添えます。

尚、私が所属する成田 CRC のコスモポリタンは世界人を意味しますが、実態は地区出向経験者も少ない Domestic なクラブなので、公式訪問の機会に各クラブの活動を体験させていただくべく、毎回 2 人の会員が私に同行しています。本日は、先ほどご案内のありましたクラブ会長の石井・幹事奥村の両会員に加え、地区幹事長の藤崎が陪席させていただきますので、宜しくお願ひします。

創立 53 年の長い歴史を誇る千葉南 RC は、最盛期と比べると会員数が半数近くに減少しましたが、未だ地区で 10 指に入る 53 名の会員を有し、地域奉仕のみならず、姉妹クラブとの提携による国際奉仕活動等に積極的に取り組んでおられます。他方、千葉南 RC を親クラブとする千葉緑 RC は、私にとっては地区野球リーグで馴染みのあるクラブで、サイドスローの森投手の球をどうやって攻略しようかと頭を悩ませたもので、休部されたのは残念です。しかし、当地区で 5 番目に歴史の浅い 1998 年創設にも拘わらず、韓国及び横浜の RC との姉妹クラブ協定を通じた交流活動、また、カンボジアにおける水、及び小学生支援等の国際奉仕を含めた素晴らしいロータリー活動を展開されています。

このような中、千葉南 RC が「ロータリーをもっと理解しよう」を今年度のモットーに、そして千葉緑 RC はロータリーの勉強会に力を入れるということで、いみじくも両クラブともロータリーについての理解深化が今年度の取組事項のようで、合同勉強会等を開いて、一緒に研修をされると良いのではないかと思います。

また、両クラブとも会員増強を課題の1つに挙げていますが、例会出席率の向上も課題と思われるので、斯かる課題についても、合同勉強会のテーマとして、色々な面でお互いに協力し、また情報交換を通じて課題解決に取り組まれると良いと思います。

さて、本日は、まず RI のテーマ・方針、及び地区の行動指針・運営方針について、そして、2 番目にロータリーの変化と対応という 2 つのテーマについて話をします。

John F. Germ 本年度 RI 会長は、

1. ロータリーに誘われた時点で、私達は、素晴らしい仲間と出会い、そして、人のために役立つことをする大きな機会を与えられる。世界には、多くの課題、助けを求めている人がいるが、我々に与えられた機会を生かすか否かは、我々一人ひとりの行動にかかっている。そして、我々は様々な分野から集った熱心で有能な職業人の集団であり、世界を変える力、ネットワーク、及び知識の結集がある。
2. 我々は、ポリオ撲滅に取り組んでいるが、ロータリーとは何か、そして何に取り組んでいるかを地域に広め、資金援助者を含めた仲間、会員を増やすことが重要で、仲間が増えれば、我々はより大きな目標を達成することが出来る。
3. 単に会員を増やすのではなく、奉仕活動に取組み、4 つのテストを真に実践できる会員、そして新入会員を暖かく迎え入れるリーダー、クラブが必要だ
4. P. ハリスがロータリーを創設した目的「価値観を分かち合える人をみつける」は、現在も生きている。大切なのは、誠実さ、多様性、寛容、友情、平和を重んじ、人類への奉仕が人生最大の目的と信ずることだ。
5. ロータリアンは平等で、私たちはチームの一員だ。

皆で協力して多くの人の人生を良いものにしよう。と述べた上で、ポール ハリスと同様、人生最大の目的は人類に奉仕することと信じ、2016-17 年度のテーマを「Rotary Serving Humanity = 人類に奉仕するロータリー」としました。そして、対外的には、今やパキスタンとアフガニスタン、更に一旦終息が宣言されたが本年 8 月に 3 人の発症が伝えられているナイジェリア等の「ポリオの完全撲滅」、内部に向けては、より大きな目標を達成するための「会員増強」を重点取組事項とすると共に、ロータリー戦略計画に基づき、クラブのサポート強化、b) 人道的支援の重点化と増加、c) 公共イメージと認知度の向上に努めるよう私たちに求めました。

私は、志を同じくする人の集団は、その目的追及及び活発な活動の展開に仲間の拡大が欠かせないと考えます。ただ人数が多ければ良いという話ではありませんが、ロータリーも同じで、会員が多ければ多いほど、私たちは

素晴らしい仲間と出会う機会が増えます。また、奉仕活動を含めた種々の活動を活発に展開できます。そして、結果的に地域における知名度が高まり、新しい仲間の輪の拡大に繋がると思います。

「ロータリーとは何ですか?」、また、「ロータリーは何をやっている団体ですか?」と聞かれ、答えに窮する会員も多いと思いますが、私は「価値観を分かち合う仲間との Fellowship、即ち、友好を通じて自らの人間性・人間力を高めると共に、自らの職業を通じ、また、出来る範囲で周りの人の役に立つことをする心がけを持つ人の集まり」と答えます。尚、ロータリーは、職業上の高い倫理基準を求めています。私は、倫理感とは、職業だけではなく、人間として社会生活をおくる上で身に着けるべき基本と考えます。

ロータリアンとなって素晴らしい仲間との出会いを、また、他の人のために役に立つことが出来る機会を既に与えられている私達は、ロータリーに対して感謝の気持ちを持つと共に、この感謝の気持ちを分かち合う仲間の拡大に挑戦すべきと考え、地区行動指針を「感謝と挑戦」としました。言い換えれば、私たちは、ロータリアンであることに感謝の念を持つことが出来るような活動に挑戦することが重要です。

東京のある RC が、去る 7 月末に東日本大震災で被災した福島盲学校の生徒・先生をハワイに招待しました。私が以前航空会社で働いていたことを知っている国際ロータリー日本事務所の職員を通じて依頼があり、私が出発に先立つ成田空港でのお手伝いを手配したことから、帰国後、お礼のメールが送られてきました。その中に、参加者が、ハワイのロータリアン及び盲学校生との交流を通じて感激している姿を見て、「自分がロータリアンになって良かった」と、初めて思ったとの感想が付けられました。

このように、ロータリアンになって良かったと思う事が出来る活動を一生懸命追及することが、ロータリーにとってだけでなく、ロータリアン本人にとって大事だと思います。」

さて、当地区会員数は、国際ロータリー第 1 ゾーン最大ですが、1995 年 4 月の 4,378 名を peak に減少しました。2012 年 6 月末の 2,689 名で底を打ち、その後わずかながら増加に転じ、本年 6 月末は 2,739 名でした。

しかし、地域特性もあり、当地区では 2 極分化が進んでいて、本年 7 月 1 日時点では、会員数が最大のクラブが 80 名に対し、最少は 5 名です。

50 名を超える大きなクラブが 14、40 名台が 9、そして 30 名台が 20 で、これらの総計は全体の 5 割強の 43 クラブです。

他方、残り 40 クラブは会員 29 名以下で、そのうち 13 クラブは会員が 19 名以下です。

3 年前、私が地区クラブ奉仕委員長兼会員増強委員長を拝命した折、委員の皆さんとアンケート調査等を行い、会員増強について色々研究した結果は以下の通りでした。

- 1) 会員減少期でさえ、当地区では毎年 200 名超の新入会員が誕生していました。問題は、入会者と同数、

あるいはそれ以上の会員が退会したことです。尚、このような知見に基づき、私が会員増強委員長を務めた翌年から地区の組織が、「会員増強・退会防止委員会」に改称されたことは、ご案内の通りです。

2) 後任が来る大手企業の社員の職場間異動を別にする、退会者の多くは、高齢者、及び入会 5 年未満、特に入会 2~3 年でロータリーについての知識と理解が未だ十分でない会員でした。

3) 会員歴 5 年未満の会員が退会する背景には、例会出席等の活動参加に時間的余裕がない、ロータリアンになったが活動に魅力がない・奉仕活動への取組みが少ない、幹部と意見が合わない等が多く見られました。会員増強に関する他地区資料を見ると、入会理由として職業上の繋がりが大多数で、趣味の仲間も多くありました。そして、退会理由は、仲間意識の薄れ、親睦活動に魅力が無い等が多く見られます。尚、これは避けて通ることが難しい問題ですが、日本の会員数増減は GDP の変化に呼応しているという見方もあります。

日本全体の統計では、入会 1 年未満での退会が 7%、1~2 年未満が 10%、3~4 年が 13%、即ち、入会者の 30%が 4 年以内で退会しているようで、その背景は、会員増強に重きが置かれて入会基準が甘いという見方があるようですが、私は、そうではなく、加入したクラブの活動に魅力が無いからではないかと考えます。従って、我々がまず取り組むべきは、縁あって入会した人が、ロータリアンになって良かったと思うような活動をクラブが追求すること、即ち、人類に奉仕するロータリーの第 1 歩は仲間に対する奉仕と考え、退会者を減らすことだと思います。

具体的には、出席したくなる例会、参加したくなる親睦・奉仕活動の展開、及びロータリーを理解し、かつロータリー活動に対する関心を深める研修の強化です。

私が学校を卒業して企業に勤め始めた約 50 年前、職場では、部長は元より、課長の顔を見ることもまれでしたが、1990 年代に入って産業の Globalization、即ち国際化が進むと、企業間競争が激化し、大手企業でも今や課長・部長は元より、取締役も率先して仕事に直接携わらざるを得ない状況、言い換えれば職位があがるほどに仕事が厳しくなり、中には、社長も大部屋で一般社員と一緒に仕事をしている大企業も出てきました。ロータリーの根幹は職業奉仕であり、自らの職業をしっかりと務めることが第 1 です。従って、気ぜわしい現在の世で貴重な時間をロータリー活動に割くには、私達は、今まで以上に魅力ある活動を展開しなければ会員の維持、新規会員勧誘は難しいと思います。

ロータリーは単年度主義と言われますが、これは会長、ガバナー等の任期で、会員は毎年変わるわけではありません。従って、クラブ運営は継続性を以って行う必要があります、特に、仲間の拡大に繋がる元気なクラブ作り、研修を通じた会員歴の短い会員の育成、そして、新規会員の勧誘等は、継続的取り組みをもって

対応する必要があります。

会員増強という、「質か量か」の議論が先行し、行動が伴わないケースがよく見られます。クラブの中には、会員が少なくても、会員歴の長い会員を中心に模範的な活動を展開しているクラブもありますが、会員の加齢は年々避けて通ることが出来ず、このようなクラブでも、新入会員、特に若年新入会員の勧誘に力を入れる必要があります。

ロータリー活動の経験が浅い私ですが、最近地区委員、ガバナー補佐等を体験し、ロータリー活動・歴史等についての知識が豊富で、研究を常に怠らない会員が多くいることを知りました。その後、私は、斯かる仲間から色々教を受けています。

クラブには、このようにロータリー活動についての識見に富んだ会員も必要ですが、多くの会員にこのような活動を望むのは難しいと思うと共に、私は、全員がこのような会員である必要は無いと思います。それよりも、例会等に参加し、お互いに意見を交わし、知らないことを学んで成長していくことが大事です。

111 年の歴史を通じて変化してきたロータリーには、こうでなくてはいけない、あるいはこうあるべきだと言う絶対はなく、それより多様性が重んじられると共に、理念を求めるよりも実践・行動が重要だと思います。従って、Germ 国際ロータリー会長の言にもある通り、4 つのテスト、ロータリーの目的、あるいはロータリアンの行動規範が実践できる人、また実践しようとする人であれば、誰でもロータリアンになる資質を備えているのではないのでしょうか。ロータリアンは平等です。大事なことは、ロータリーに加入した新会員と私たちが一緒に学ぶ謙虚さを持つと共に、知らないことを教え合い、次の時代のリーダーを育てていくことだと思います。このため、今年度は、多くの新入会員を対象に研修強化を図ることが出来るよう、地区主催ではなく、AG 主催により約 10 年前まで行われていた分區別会員歴 5 年未満会員研修を復活させましたが、結果として、ここ 2 年は秋の行事となっている IM の開催を年明けに戻しました。

もう 1 つ忘れていけないことは、創立 25、30 年を迎えて会員の高齢化が進むクラブの中に、会員減少が顕著なクラブが見られることで、クラブ運営は常に課題を見つけ、その解決に継続的に全員で取り組み、この時期を乗り切ることも重要です。

私は、会員増強と言わず、あえて仲間の拡大と言いますが、全てのクラブが元気なクラブとして充実した活動を追求し、志を同じくする仲間の輪の拡大に繋げていただくよう、今年度ガバナー月信最終頁で元気なクラブを紹介しています。皆さんには、是非、他のクラブの模範となるような元気なクラブの活動をガバナー月信で披露していただくようお願いします。

RI 会長が求める会員増強目標達成は元より、皆さんには、

- ① 来年の R 財団 100 周年に向け、例えば地域の奉仕プロジェクトに R 財団 100 周年記念事業の冠をつけていただく、また、

- ② ここ2年続いている地区としての R 財団寄付ゼロクラブ O の継続に向けた協力、そして、③情報システム化が進む国際ロータリーに access するための My Rotary 登録推進等をお願いします。

さて、本日の卓話の 2 番目のテーマは、変化するロータリーと、私たちの対応です。

今年 1 月、ガバナーになるため受講が必須の国際協議会に参加した折、来年 6 月に米国ジョージア州アトランタで開催される国際協議会のスポンサーにコココーラ社が指名されたとの発表がありました。同時に、コココーラの文字とロータリーのロゴマークが印刷された赤いセロファンで包まれたコココーラの瓶が晩餐会の食卓に提供されたことに、私は、ロータリーがこんなことをするのかと驚かされました。

本年 4 月の規定審議会では、標準ロータリークラブ定款の近來稀な大幅改定が行われました。8 月 15 日付で地区より和訳 2016 年版「標準 RC 定款」をご案内したので、皆様には、既に新しい標準 RC 定款の内容について検討を始められていると思いますが、今回の大きな改訂の多くは、義務ではなく、各クラブの裁量範囲を広げる任意規定です。即ち、改定された義務規定は、主として以下の 9 つです。

- 1) 理事に会計を含む
- 2) 理事会議事録の作成、及び会員への 60 日以内の回覧
- 3) 少なくとも①クラブ管理運営、②会員増強、③奉仕プロジェクト、④公共イメー、⑤ロータリー財団の 5 つの委員会のクラブ内設置
- 4) 出席免除会員の条件に、少なくとも 20 年以上ロータリアンであることを付加
- 5) Eクラブの名称と定義の廃止
- 6) 2017~18 年度以降の人頭分担金引上げ額を現在の年間 USD1から USD4 に変更
- 7) 職業分類は残すものの、会員身分の条件緩和
- 8) ローターアクターとロータリアンの二重登録可能
- 9) 年会費の徴収義務は残ったが、入会金の徴収義務は廃止

これらは、本年 7 月 1 日以降導入が求められる規定変更ですが、この中で、会員身分の条件緩和、及びローターアクターとロータリアンの二重会員可能は、規定として排除できないものの、クラブが新入会員の選考にあたり、別の理由で職業経験の無い人、また、ローターアクターの加入を排除することは可能です。

そして、例外規定として新たに導入された

- 1) 例会は最低月 2 回で良い。
- 2) 従来の会合型クラブの一部例会のオンライン化可能
- 3) 祝祭日がある週の例会は休会に出来る等は、採用するか否かはクラブの裁量に任されており、徴収義務が廃止された入会金を徴収するか否かを含め、各クラブが細則でいかようにも決めることが可能です。同時に、従前の運用形態を継続することも可能です。

尚、会合規定で例会のオンライン化が認められているため、名称は別にして Eクラブの設立は引続き可能です。

しかし、逆に言うと、これら緩和された規定に基づき、①入会金無料、②例会は月 2 回、③例会の 1 部をオンライン例会とする、④祝祭日のある週の例会は休会。但し、例会を月 2 回としたクラブには不適用。⑤職業経験の無い人も会員にする、⑥ローターアクターも会員にする等のクラブ運営形態が可能になりました。

ご案内の通り、各クラブは RI の管轄下にあり、地区の管轄下にはないため、私、または地区は、皆さんのクラブの運営形態について助言はできても、指導・指図は出来ない仕組みになっています。従って、地区が統一した運営基準を全クラブに指図することも出来ません。規定に基づき、規定審議会決定事項は、会議終了後 2ヶ月以内に各クラブに報告されると同時に、その後 2ヶ月以内の反対意思表示が可能です。そして、反対票が有効投票 5%を超えた規定は、全クラブを対象に再度郵便投票で賛否を問い、多数決で否決されない限り、7月1日に遡って発効します。このため、標準 RC 定款等を掲載した和訳「手続要覧」発行は年末になるのが恒例です。

しかし、今年は大変な変更があったためか、8月中旬に和訳「標準 RC 定款」、「国際ロータリー定款」、及び「国際ロータリー細則」が発表されました。また、9月中旬には、英文「2016 年手続き要覧」が発表となっています。ロータリーの基本理念に基づいた行動を追求しようと考えておられる千葉南、及び千葉緑 RC の皆さんは、今回の規定審議会決議に拘わらず、従来の運営形態を継続されると思いますが、2016 年規定審議会決議に基づく標準 RC 定款の内容をしっかりと確認し、標準 RC 定款の規定の中で、皆さんのクラブがどのような運営形態をとるかを会員間で十分に話し合い、新クラブ細則を作成していただくようお願いします。但し、今回の規定改訂でクラブ間に運営形態の差異が出てきた場合、会員のクラブ間移動が発生する可能性が否めないことに留意して下さい。皆さんには、変化するロータリーの現実を理解すると共に、各クラブがとる様々な運営形態を認める寛容さ、広い心を持って今後の活動に取組んでいただくようお願いします。

以上をもって卓話を終わらせていただきます。
有難うございました。



第2561回例会

《第3分区B合同ロータリー情報研修会》

日時⇒ 平成28年10月21日(金) 点鐘13:30

会場⇒ オークラ千葉ホテル

第2562回例会

日時⇒ 平成28年10月28日(金) 点鐘12:30

卓話⇒ 『私が見たJAPAN』

オークラ千葉ホテル・レストランスタッフ
ガイド マルティン様 (ポーランド人)

<会報当番：大塚 裕正>